

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2277100588		
法人名	社会福祉法人慶成会		
事業所名	グループホーム花みずき(葵館)		
所在地	静岡県浜松市中央区大山町2882番地		
自己評価作成日	令和7年2月4日	評価結果市町村受理日	令和7年2月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kanistrue&UjrvosyoCd=2277100588-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室
所在地	静岡県静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A
訪問調査日	令和7年2月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

広大な敷地と自然豊かな立地を活かし、3つのユニットがそれぞれ戸建となっている施設です。平屋造りということもあり、屋内も開放感のある空間が広がっています。ご利用者が自由にのびのびと暮らせるよう、玄関は夜間帯を除き常に開錠されており、気候の良い時期には日常的に屋外で外気浴や散歩を楽しんでいます。敷地内には畑もあり、保育園児と芋掘りを楽しんだり、収穫した果実や野菜で調理をしたりと、食べ物や風景でも季節が感じられます。法人全体として取り組んでいる自立支援介護では、水分摂取量や運動量、介助方法の見直しを行い、その方の生活がより自立したものとなるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

葵館、幸館、泉館と命名した3つのユニットが、其々独立した平屋住宅となっている事業所です。幅広の廊下では寒い日に戸外へ出なくても歩行の訓練が叶い、焼き芋やバーベキュー、菜園や栽植を愉しむことができる中庭もあります。また各ユニットリーダーが他事業所の管理者レベルにまで育っていて活躍していることも特長で、幸館ではリーダーが交代したことで地域活動が更に積極的となり体操教室も不定期から毎月参加に及んでいます。こまめなブログとケアプラン面談の励行で家族の信頼も厚く、10年以上勤務者が25%以上で加算が付与されること、当事業所は29.5%と、風通しがよく働きやすい職場であることも自慢の一つです

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通い場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念をクレドとして全職員へ配布し、研修を行っている。クレドの唱和、行動指針を基に毎月ユニットごとに目標をかかげ取り組んでいる。今年度は法人設立30周年記念式典があり、理事長より初心や設立時の想いを含めた法人理念について発信があった。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域包括主催の体操教室へ継続的に参加をし、事業所内で取り入れている。日常的な交流はできていないが、近くの飲食店へ出かけた、地域の桜まつりへ出かけたしている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の薬局や包括支援センターの依頼に応じて、施設見学や取り組み内容の紹介をさせていただいている。今年度は、市内の認知症家族研究会、地元地区民生委員、中国施設運営者、ベトナム視察団が来館している。
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設側の報告に対する意見だけでなく、地域の老人会や民生委員の方とのコミュニケーションによって地域の高齢者の状況を知ることができている。防災訓練の実施方法や、備蓄品、野菜の育て方にアドバイスをいただいたりと、ちょっとした事でも相談できる関係性となっている。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	引き続き生活保護者の受け入れを行っており、社会福祉課の担当職員へ調査票を提出したり、面会対応を行っている。また、地域包括支援センターと協力して、キーパーソン以外のご家族への対応を行ったりと、必要に応じた情報共有を行っている。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的拘束適正化検討委員会を設置し、各ユニットごとに目標を立て継続的に取り組んでいる。事業所内研修では、外国人職員が多い事もあり、動画研修から個人ワークの研修へ切り替え、職員個々が身体拘束について考える時間と機会が持てるよう工夫している。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を設置し、各ユニットごとに目標を立て継続的に取り組んでいる。定期的な振り返りと不適切ケアの事例紹介を行い、改善と意識向上に努めている。身体拘束同様、職員個々が虐待や不適切ケアについて考える時間と機会を持てるようにしている。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	
				実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している		成年後見制度を利用されている方が複数いるため、日々の支援を通じて学びを得ている。また、地域包括支援センターやご家族と相談し、必要に応じて申立ての手伝いもしている。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている		契約時には文章を確認しながら必ず口頭説明を行い、質問や不安点をお聞きしている。また、制度や利用料金の内容が変更となる際には、都度案内を発送し、理解と必要に応じた同意を得ている。
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている		ケアプラン面談を再開し、ご家族から直接希望をうかがう機会が増えた。コロナ禍の影響もあり、面談を希望されない場合もあるため、電話連絡や面会など、ちょっとした会話からも意見や要望が聞けるよう努めている。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている		管理者は各職員と年2回人事考課者面談を行っており、意見や提案を聞く機会を設けている。また、事業所運営については職員が主体となって月間目標を立てており、自分のやりたい事を実践したり、提案しやすい環境となっている。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている		年1回の職員意向調査を実施し、職場環境や勤務条件の整備に努めている。毎月の職員の労働時間や稼働状況などについてはアメーバ経営によって常に共有されており、人事考課の評価も含め、給与に反映されている。
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている		法人で新規採用職員研修が実施されており、入職半年を目途にフォローアップ研修も行っている。事業所内では職員一人ひとりが委員会活動やユニット内の役割を担っており、自信がない職員には先輩職員やリーダーがフォローすることで、できる事が増えるよう努めている。
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている		管理者は同業者(他法人)の定例の委員会へ参加をし、交流や情報交換の機会を持っている。また、職員が県グループホーム連絡協議会や県社会福祉協議会の研修交流会へ参加しやすいよう配慮している。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前は本人との面談を実施している。本人への聞き取りが困難な場合には、ご家族や利用していた介護事業所から詳しく聞き取りを行い、本人の様子や言動に気を配りながら関係づくりに努めている。ご家族に、可能な限りセンター方式への記入を依頼している。
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所申込の段階他、契約前に可能な限り再度ご家族に来館していただき、近況の確認を行っている。入居後の生活についての不安や要望を含め、対応可能な点や難しい点を説明しながら、関係づくりに努めている。
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	法人内の管理者が月1回集まり、入居相談があった方に対して必要なサービス利用ができるよう話し合っている。また、必要に応じて地域包括支援センターへ相談したりと、サービス提供がスムーズに行えるよう、常に情報共有している。
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員はご利用者と一緒に家事を行ったり、草取りをしたりと、共に過ごすよう努めている。何かをしてくださった後には必ずお礼を伝え、共に生活させていただいているという意識を忘れないよう努めている。
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	時間帯に限りはあるが、面会・外出は自由であり、今年度より外泊制限の緩和を行った。ご家族に衣替えや嗜好品購入について相談したりと、日々の暮らしについてもご家族と職員が協力して本人を支えている。
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	例年、暑中見舞いや年賀状をご家族に送付している。キーパーソン以外の家族の面会他、友人・知人との面会や、遠方に暮らす姉妹との電話の取り次ぎ等、関係が継続できるよう努めている。また、晩酌等、在宅からの日課も継続できるよう支援している。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	工作や家事を通じて利用者同士が自然と関わり合える環境づくりに努めている。車椅子の利用者が気兼ねなく安全に移動ができるよう、状態に応じた席替えや家具の配置替えも行っている。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	法人内の施設へ異動した際には、経過確認とケア方法の伝達を必要に応じて行っている。ご家族から相談のあった際にも都度対応しており、退去後も別の親族や知人についての入居相談をいただく事もある。
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人が昔得意だった針仕事を、気分をうかがいながらすすめるなど、生活歴や本人の気持ちを汲み取りながら日々の生活に取り入れている。また、円背が強い利用者見えやすい位置にトイレの案内表示を変更する等、生活環境もその方の立場になって検討している。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や入居前の担当ケアマネージャー、利用していたサービス事業所へ聞き取りを行う他、可能であれば自宅へ出向いて居住環境を確認している。入居前の日記や介護記録、ご家族のメモ等を提供していただいたり、センター方式を活用してご家族から情報をいただいている
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者ごとの申し送りファイルやケア記録を活用して、日々の過ごし方や変化を把握するように努めている。ケアプランのモニタリング、LIFEデータ送信時は定期的にADLの状態確認を行っており、著しい変化がみられた際には随時データ更新を行っている。
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員それぞれがご利用者の担当を受け持つており、モニタリングやご家族への電話連絡等も行っている。状態に応じて、医師や外部の鍼灸師と面談する機会を設けたりと、計画作成担当者以外の意見を取り入れるようにしている。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者について新たに気づいた事や、行動の変化を要連絡事項として記録している。記録を共有しやすいよう個別でファイリングすると共に、モニタリングに記載し、ケアプランへ反映させている。
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者やご家族の状況に応じて入退きの引越しの手伝いをしたり、ご家族が遠方な場合には地域包括支援センターと連携して区役所や金融機関の手続きを行う等、可能な範囲で柔軟に対応している。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問による理美容、歯科、マッサージ、リハビリをご利用者やご家族の希望に沿って活用している。理美容の際には、ご本人の希望に合わせた髪型を依頼したり、歯科やマッサージ利用でその方の力を維持できるよう支援している。地域向けの体操教室へも定期的に参加している。
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科医による月2回の往診以外にも、必要時に医師へ連絡相談し、指示を受け対応している。急変や医師からの急ぎの受診指示があった際には、職員が送迎や付き添いをし、嘱託医以外の医療も受けられるよう支援している。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師と24時間オンコール体制をとっており、必要に応じて相談・対応が可能である。宅直看護師以外にも、連携をとっているクリニックの看護師・医師への状況共有や支援が受けやすい環境である。
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院の際には職員が病棟まで立ち合い、医療機関へ生活状況等を詳しく伝えている。立ち会えない場合は電話連絡で状況確認と情報提供を行い、早期退院に努めている。必要に応じてフェイスシートを作成し、入院前の情報を伝えている。
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約の段階で「重度化・看取り介護に関する指針」を提示し、現時点での意向の確認を行っている。状態変化に応じてご家族・医療関係者を含む面談を実施し、対応を検討している。退去後の療養先についても、ご家族の希望に合わせて他事業所や地域包括支援センターへ連絡して資料を取り寄せている。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	月1回、協力医療機関と連携会議を行っており、急変が予測されるご利用者について情報共有を行っている。病状に合わせ、対応が必要な事項については事前に医師から指示をもらい、職員間で共有し備えている。
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間火災、大規模地震を想定した避難訓練を実施している。自動火災通報装置の説明他、年1回水消火器訓練を実施し、地元企業からの指導を受けている。法人内事業所が隣接しているため、BCPを基に協力体制が得られるよう備えている。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者の生活歴や性格に合わせて同性介助をしたり、本人が一人で着替えやすいようセッティングを工夫している。不適切ケアにならないよう、言葉かけの事例の共有他、各ユニットで目標を設定し取り組んでいる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者の希望に応じて手作りご飯のメニューを決めたり、おやつ時間を利用してお菓子バイキングやドリンクバーを行うなど、選ぶ楽しみを持てるよう工夫している。また、日々の会話の中でも本人の希望等を聞くことができるため、ご利用者との会話を大切にしている。
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レベルや嗜好に合わせたレクリエーションの提供他、内容や希望に応じて日課や業務時間を変更し対応している。屋外で過ごしたい方には、所在確認や見守りをしながら屋外で過ごしていただいたり、柔軟に対応している。
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回の訪問理美容では本人の希望や好みを伝えられるよう支援している。また、本人やご家族の希望で日常的に化粧水を使用したり、ビューティーレクリエーションでネイルやメイクを楽しんでいただいている。
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれの能力や性格を踏まえ、役割分担をしながら準備や片付けに参加していただいている。食事だけでなく、季節感のあるおやつを取り入れたり、テイクアウト等も活用しながら食の楽しみを増やせるようにしている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は業務委託先の管理栄養士が考え、バランスの良い食事を提供している。摂取量や状況に応じて食形態を見直したり、能力に応じて食器も工夫している。また、自立支援介護を実践していることもあり、こまめな水分補給を心掛けている。
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアでは、まずは自身で歯磨きをしていただいた後、職員が仕上げ磨きを行っている。状態にあわせて、清拭用スポンジや歯間ブラシも活用しており、月1回の歯科衛生指導では職員も一緒に口腔内の状態確認とブラッシング指導を受けている。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価 実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄ナエツク表を活用し、個々に合わせたタイミングでトイレにお誘いしている。認知症により、尿意・便意の理解が乏しくなった方でも、必ずトイレへお誘いし、トイレでの排泄をすすめている。排泄用品もその方にあったものを選ぶよう、業者と相談しながら検討している。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	法人内で自立支援介護研究会が開催されており、便秘予防について学んでいる。その一環として水分摂取、歩行や体操の機会を確保し、自然排便に向けて日頃から取り組んでいる。また、個々に合わせてオリゴ糖やファイバーを活用し、下剤使用を減らせるよう取り組んでいる。
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	季節に合わせてお風呂を楽しんでいただいたり、日頃から入浴剤を選ぶよう準備している。個々の性格や状態に合わせて、お誘いするタイミングに配慮したり、同性介助にする等、その方が安心して気持ちよく入浴できるよう支援している
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や体調・気分に合わせてソファや自室で休息していただいている。室温や照明の調整他、希望に応じて冬場に湯たんぽを用意したりと気持ちよく眠れるよう支援している。夜間不眠の方には外気浴や日光浴、運動にお誘いし、自然な睡眠の促しに努めている。
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	住診時には薬剤師も同席し、一人ひとりに合った内服薬の調整と配薬管理を行っている。職員は配薬カードを活用して処方薬を把握し、誤薬のないよう努めている。内服薬を変更した際には理由を必ず記録し、職員間で共有している。変更後の経過も必ず確認し、医師に報告している。
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の家事分担他、生活歴から本人の得意な裁縫や編み物の機会を設けたり、本人の好まれる塗り絵を提供したりしている。昔からの習慣である日本酒での晩酌や、YouTubeで銀幕のスターを楽しむ時間を設けたりと、嗜好に合わせて気分転換ができるよう支援している。
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候にもよるか、散歩や草取り等、戸外で過ごす機会を多く持っている。ドライブや喫茶店への外出他、バラ園や紅葉狩り、初詣等、季節に合わせた外出支援をしている。嗜好に合わせて生け花の展覧会へ出かけたり、ご家族の協力のもと一泊旅行や孫の結婚式へ参列する等している。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	殆どの方が自己管理が難しく、使用する機会があまりないが、現金を持っていないと不安な方には、ご家族に了承を得てお財布を持っていたりしている
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状・暑中見舞い他、姉妹との手紙のやり取りを支援している。希望に応じて固定電話や携帯電話を持参していただき、やり取りが継続できるよう支援している。
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	今年度はトイレの扉を改修をしており、閉鎖時の雑音が軽減された。ハード面だけでなく、身体的拘束適正化検討委員会や高齢者虐待防止委員会を通して、声の大きさや口調等について目標設定をたてたりと、職員の立ち居振る舞いが利用者の不快とならないよう日頃から気を付けている。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者同士が隣席で過ごせるよう、日頃から配慮している。リビング他、廊下・玄関・玄関先にベンチやソファを配置しており、思い思いの場所で過ごしやすいう支援している。冬場にはリビングに自由に使用できるひざ掛けを用意したりと、ゆったり過ごせるよう配慮している。
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や寝具の使用他、衣類の保管方法も自宅に近いものとなるよう工夫している。居室に飾られた家族写真を定期的に入れ替えていただいたり、本人が好まれるウール素材の衣類を着用続けられるよう、定期的にクリーニングに出していただいたり、ご家族の協力も得られている。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物はバリアフリーとなっており、中庭を挟んで反対側の廊下やリビングが目視できるため、職員が常時傍で見守るのではなく、本人の様子を少し離れた場所から見守り、必要時に手助けにうかがえる環境となっている。

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

外部評価	
実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<p>クレドは十数項目あるので、毎月1つを取り上げて月間目標を意識するよう図っていて、例えば「挨拶」の項目では名前を呼びかけて挨拶することに活気づく様子が随所にみられ、現場で職員が意識していることが確認されています</p>	
<p>これまでは不定期だった体操教室への参加を幸館では毎月の定期実施へとつなげ、また全ユニットにおいても、ハンバーガーショップや回転寿司探訪といった食の楽しみを含み、外での「ふれあい」を貴重な機会として捉えた取組があります</p>	
/	/
<p>各ユニットから1家族を選出して案内を出しており、家族参加も最大で3名います。また行政は無論のこと、法人の運営委員や他のグループホームの職員もメンバーとなり、賑わいのある運営推進会議が隔月開催されています</p>	
<p>虐待防止委員会、身体的拘束適正化検討委員会では集団指導の資料を活用し、またリーダー会議には浜松市の事故報告の要領が変更になったことが議題となっていることを書面確認しました。常に法令遵守を旨とした態勢にあります</p>	
<p>身体的拘束適正化検討委員会のメンバーはユニットリーダーから一般職へと移行させ、小テストを兼ねた個人ワークを提出してもらっていて、少しずつ自由記載を増やしており、「全体で意識を高め、個で考える」方向へと導いていることを受けとめました</p>	
/	/

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

外部評価	
実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<p>家族が「トイレで踏ん張れる用具を～」と持ち込んだ例をはじめ、何事もまずは聞き入れ、試行して不具合な場合はその状況を家族に説明のうえ、代替案をだして合意を得ており、「難しいな」と思っても即答で「できない」と言わないようにしています</p>	
<p>ユニットリーダーが出勤してくると我先にと立ち話で相談が始まるユニットもあり、相談先の選択肢とコミュニケーションが豊かなことで定着率を高く保っています。また意見も言いやすいため、骨折予防のマット購入や棚の改修に大いにつながっています</p>	

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

外部評価	
実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
泉館では家族だけでなく以前の職場の同僚が訪れてもいて、全ユニットにおいて歓迎の態勢にあります。晩酌、オリゴ糖など在宅の頃の習慣を続ける人もいるほか、年賀状と暑中見舞いは恒例行事として定着しています	

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

外部評価	
実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<p>ドアの上部が視界に入らない人には表示位置を変えるといったことが日常にあり、最近の事例では生活歴を紐解いて縫物が再開した利用者もいます。生活の記録を書き留める連絡ノートがあり、「この表情のときは～」などの情報が共有されています</p>	
<p>介護計画書は3か月に一度の見直しを図り、ケアプラン面談では家族の参加を仰いでいます。ケアプラン面談は、普段から情報交換が密なことから「もういいよ」と断られる例もあるとのエピソードもあり、チームケアが持続されていることが伝わります</p>	

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

外部評価	
実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24時間オンコールの看護師を備えるとともに月2回の訪問診療を以って、健康管理の体制をつくっています。更に事業所では診療前に「情報提供表」を医師と薬局にFAXで送り、当日は管理者が立ち会いと記録を担当することで、適切な受診となるよう努めています	
入居時に説明する指針には終末期の選択肢として「病院」「施設」「わからない」を設けてあり、ここでは「まだわかりません」との家族が大半です。此処で看取らず、急変して病院で亡くなった人にも遺影写真や葬儀で使うものを提供し、家族から感謝されています	
2回の法定訓練の内1つには大規模災害の訓練を加えて実施しています。避難訓練の経路はイラスト化して外国人職員にも分かり易くしており、大きなものには倒壊防止の器具を付け、自主検査チェック表も見直しを図る等、きめ細やかな取組がみられます	

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

外部評価	
実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<p>ご飯を食べても「食べてない」という利用者が増えている泉館では、否定せず言い換えの言葉を検討しています。基本は苗字のさんづけですが、入浴の拒否がある人には子どもの頃に呼ばれた「～ちゃん」と呼びかけることでスムーズな進行となることもあります</p>	
<p>昼食と夕食前には嚙下体操をおこない、テーブル拭きやお茶を入れてもらい、また手作りご飯の日にはピーラーをつかった皮むきやカニかまを割くなど、その人のできることを役割としてもらっています。普段反応がない人も「上手だね」と声をかけると、応えてくださいます</p>	

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

外部評価	
実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
各ユニットには、和式1か所を含み4つのトイレが設置されています。自宅ではリハビリパンツだった人が、事業所では布パンツまたは布パンツとパッドとなる例は多くあり、こまめな確認や都度の声がけなどの配慮に因りその後も維持が図られています	
ゆずやしょうぶ、かりんを浮かべたり、足浴には皮膚疾患にも効果があるドクダミを活用したりと、気分を高める取組が見られます。また花びらを浮かべる等ロイヤル気分を高めたハンドマッサージも励行され、今後は以前の利用者家族の福祉ネイルの訪問が予定されています	
初詣、お花見、紅葉狩りは行事一覧に掲載され、実施を確かなものとしています。木蓮、河津桜、ソメイヨシノ、紫陽花、菜の花と季節の花々が咲き乱れる敷地内の散策は日常に溶け込んでおり、また法人でヤギを飼い始めていて、訪ねるコースが更に増えています。	

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

外部評価	
実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
朝は窓を開け放ち換気をおこなっており、リビングにおける温度・湿度計の計測と記録は日課で、幸館ではユニット予算で各居室にも温度・湿度計を設置しています。また「寒い」という声にすぐ応えることができるようひざ掛けのストックが沢山用意されています	
テレビの持ち込みは多く、3ユニット全体で14台です。自宅で布団だった人は自身であげおろしをして布団を継続しています。衣類がうまく整理することが難しい人は籠で分けてもらっていたり、服をすべてハンガーで吊るしている人もいます	

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2277100588		
法人名	社会福祉法人慶成会		
事業所名	グループホーム花みずき(泉館)		
所在地	静岡県浜松市中央区大山町2882番地		
自己評価作成日	令和7年2月4日	評価結果市町村受理日	令和7年2月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kanistrue&jirvovocd=2277100588-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和7年2月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

広大な敷地と自然豊かな立地を活かし、3つのユニットがそれぞれ戸建となっている施設です。平屋造りということもあり、屋内も開放感のある空間が広がっています。ご利用者が自由にのびのびと暮らせるよう、玄関は夜間帯を除き常に開錠されており、気候の良い時期には日常的に屋外で外気浴や散歩を楽しんでいます。敷地内には畑もあり、保育園児と芋掘りを楽しんだり、収穫した果実や野菜で調理をしたりと、食べ物や風景でも季節が感じられます。法人全体として取り組んでいる自立支援介護では、水分摂取量や運動量、介助方法の見直しを行い、その方の生活がより自立したものとなるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

葵館、幸館、泉館と命名した3つのユニットが、其々独立した平屋住宅となっている事業所です。幅広の廊下では寒い日に戸外へ出なくても歩行の訓練が叶い、焼き芋やバーベキュー、菜園や栽植を愉むことができる中庭もあります。また各ユニットリーダーが他事業所の管理者レベルにまで育っていて活躍していることも特長で、幸館ではリーダーが交代したことで地域活動が更に積極的となり体操教室も不定期から毎月参加に及んでいます。こまめなブログとケアプラン面談の励行で家族の信頼も厚く、10年以上勤務者が25%以上で加算が付与されること、当事業所は29.5%と、風通しがよく働きやすい職場であることも自慢の一つです

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念をクレドとして全職員へ配布し、研修を行っている。クレドの唱和、行動指針を基に毎月ユニットごとに目標をかかげ取り組んでいる。今年度は法人設立30周年記念式典があり、理事長より初心や設立時の想いを含めた法人理念について発信があった。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域包括主催の体操教室へ継続的に参加をし、事業所内で取り入れている。日常的な交流はできていないが、近くの飲食店へ出かけたり、地元の桜まつりへ出かけたりしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の薬局や包括支援センターの依頼に応じて、施設見学や取り組み内容の紹介をさせていただいている。今年度は、市内の認知症家族研究会、地元地区民生委員、中国施設運営者、ベトナム視察団が来館している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設側の報告に対する意見だけでなく、地元の老人会や民生委員の方とのコミュニケーションによって地域の高齢者の状況を知ることができている。防災訓練の実施方法や、備蓄品、野菜の育て方にアドバイスをいただいたりと、ちょっとした事でも相談できる関係性となっている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	引き続き生活保護者の受け入れを行っており、社会福祉課の担当職員へ調査票を提出したり、面会対応を行っている。また、地域包括支援センターと協力して、キーパーソン以外のご家族への対応を行ったりと、必要に応じた情報共有を行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的拘束適正化検討委員会を設置し、各ユニットごとに目標を立て継続的に取り組んでいる。事業所内研修では、外国人職員が多い事もあり、動画研修から個人ワークの研修へ切り替え、職員個々が身体拘束について考える時間と機会を持てるよう工夫している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を設置し、各ユニットごとに目標を立て継続的に取り組んでいる。定期的な振り返りと不適切ケアの事例紹介を行い、改善と意識向上に努めている。身体拘束同様、職員個々が虐待や不適切ケアについて考える時間と機会を持てるようにしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている方が複数いるため、日々の支援を通じて学びを得ている。また、地域包括支援センターやご家族と相談し、必要に応じて申立ての手伝いもしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には文章を確認しながら必ず口頭説明を行い、質問や不安点をお聞きしている。また、制度や利用料金の内容が変更となる際には、都度案内を発送し、理解と必要に応じた同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアプラン面談を再開し、ご家族から直接希望をうかがう機会が増えた。コロナ禍の影響もあり、面談を希望されない場合もあるため、電話連絡や面会など、ちょっとした会話からも意見や要望が聞けるよう努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は各職員と年2回人事考課者面談を行っており、意見や提案を聞く機会を設けている。また、事業所運営については職員が主体となって月間目標を立てており、自分のやりたい事を実践したり、提案しやすい環境となっている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回の職員意向調査を実施し、職場環境や勤務条件の整備に努めている。毎月の職員の労働時間や稼働状況などについてはアメンバー経営によって常に共有されており、人事考課の評価も含め、給与に反映されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人で新規採用職員研修が実施されており、入社半年を目途にフォローアップ研修も行っている。事業所内では職員一人ひとりが委員会活動やユニット内の役割を担っており、自信がない職員には先輩職員やリーダーがフォローすることで、できる事が増えるよう努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は同業者(他法人)の定例の委員会へ参加をし、交流や情報交換の機会を持っている。また、職員が県グループホーム連絡協議会や県社会福祉協議会の研修交流会へ参加しやすいよう配慮している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前は本人との面談を実施している。本人への聞き取りが困難な場合には、ご家族や利用していた介護事業所から詳しく聞き取りを行い、本人の様子や言動に気を配りながら関係づくりに努めている。ご家族に、可能な限りセンター方式への記入を依頼している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所申込の段階他、契約前に可能な限り再度ご家族に来館していただき、近況の確認を行っている。入居後の生活についての不安や要望を含め、対応可能な点や難しい点を説明しながら、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	法人内の管理者が月1回集まり、入居相談があった方に対して必要なサービス利用ができるよう話し合っている。また、必要に応じて地域包括支援センターへ相談したりと、サービス提供がスムーズに行えるよう、常に情報共有している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員はご利用者と一緒に家事を行ったり、草取りをしたりと、共に過ごすよう努めている。何かをしてくださった後には必ずお礼を伝え、共に生活させていただいているという意識を忘れないよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	時間帯に限りはあるが、面会・外出は自由であり、今年度より外泊制限の緩和を行った。ご家族に衣替えや嗜好品購入について相談したりと、日々の暮らしについてもご家族と職員が協力して本人を支えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	例年、暑中見舞いや年賀状をご家族に送付している。キーパーソン以外の家族の面会他、友人・知人との面会や、遠方に暮らす姉妹との電話の取り次ぎ等、関係が継続できるよう努めている。また、晩酌等、在宅からの日課も継続できるよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	工作や家事を通じて利用者同士が自然と関わり合える環境づくりに努めている。車椅子の利用者が気兼ねなく安全に移動ができるよう、状態に応じた席替えや家具の配置替えも行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	法人内の施設へ異動した際には、経過確認とケア方法の伝達を必要に応じて行っている。ご家族から相談のあった際にも都度対応しており、退去後も別の親族や知人についての入居相談をいただく事もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人が昔得意だった針仕事を、気分をうかがいながらすすめるなど、生活歴や本人の気持ちを汲み取りながら日々の生活に取り入れている。また、円背が強い利用者の見えやすい位置にトイレの案内表示を変更する等、生活環境もその方の立場になって検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や入居前の担当ケアマネージャー、利用していたサービス事業所へ聞き取りを行う他、可能であれば自宅へ出向いて居住環境を確認している。入居前の日記や介護記録、ご家族のメモ等を提供していただいたり、センター方式を活用してご家族から情報をいただいている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者ごとの申し送りファイルやケア記録を活用して、日々の過ごし方や変化を把握するように努めている。ケアプランのモニタリング、LIFEデータ送信時は定期的にADLの状態確認を行っており、著しい変化がみられた際には随時データ更新を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員それぞれがご利用者の担当を受け持っており、モニタリングやご家族への電話連絡等も行っている。状態に応じて、医師や外部の鍼灸師と面談する機会を設けたりと、計画作成担当者以外の意見を取り入れるようにしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者について新たに気づいた事や、行動の変化を要連絡事項として記録している。記録を共有しやすいよう個別でファイリングすると共に、モニタリングに記載し、ケアプランへ反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者やご家族の状況に応じて入退去の引越しの手伝いをしたり、ご家族が遠方な場合には地域包括支援センターと連携して区役所や金融機関の手続きを行う等、可能な範囲で柔軟に対応している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問による理美容、歯科、マッサージ、リハビリをご利用者やご家族の希望に沿って活用している。理美容の際には、ご本人の希望に合わせた髪型を依頼したり、歯科やマッサージ利用でその方の力を維持できるよう支援している。地域向けの体操教室へも定期的に参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科医による月2回の往診以外にも、必要時に医師へ連絡相談し、指示を受け対応している。急変や医師からの急ぎの受診指示があった際には、職員が送迎や付き添いをし、嘱託医以外の医療も受けられるよう支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師と24時間オンコール体制をとっており、必要に応じて相談・対応が可能である。宅直看護師以外にも、連携をとっているクリニックの看護師・医師への状況共有や支援が受けやすい環境である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院の際には職員が病棟まで立ち合い、医療機関へ生活状況等を詳しく伝えている。立ち会えない場合は電話連絡で状況確認と情報提供を行い、早期退院に努めている。必要に応じてフェイスシートを作成し、入院前の情報を伝えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約の段階で「重度化・看取り介護に関する指針」を提示し、現時点での意向の確認を行っている。状態変化に応じてご家族・医療関係者を含む面談を実施し、対応を検討している。退去後の療養先についても、ご家族の希望に合わせて他事業所や地域包括支援センターへ連絡して資料を取り寄せている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	月1回、協力医療機関と連携会議を行っており、急変が予測されるご利用者について情報共有を行っている。病状に合わせ、対応が必要な事項については事前に医師から指示をもらい、職員間で共有し備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間火災、大規模地震を想定した避難訓練を実施している。自動火災通報装置の説明他、年1回水消火器訓練を実施し、地元企業からの指導を受けている。法人内事業所が隣接しているため、BCPを基に協力体制が得られるよう備えている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者の生活歴や性格に合わせて同性介助をしたり、本人が一人で着替えやすいようセッティングを工夫している。不適切ケアにならないよう、言葉かけの事例の共有他、各ユニットで目標を設定し取り組んでいる。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者の希望に応じて手作りメニューを決めたり、おやつ時間を利用してお菓子バイキングやドリンクバーを行うなど、選ぶ楽しみを持てるよう工夫している。また、日々の会話の中でも本人の希望等を聞くことができるため、ご利用者との会話を大切にしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レベルや嗜好に合わせたレクリエーションの提供他、内容や希望に応じて日課や業務時間を変更し対応している。屋外で過ごしたい方には、所在確認や見守りをしながら屋外で過ごしていただいたり、柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回の訪問理美容では本人の希望や好みを伝えられるよう支援している。また、本人やご家族の希望で日常的に化粧水を使用したり、ビューティーレクリエーションでネイルやメイクを楽しんでいただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれの能力や性格を踏まえ、役割分担をしながら準備や片付けに参加していただいている。食事だけでなく、季節感のあるおやつを取り入れたり、テイクアウト等も活用しながら食の楽しみを増やせるようにしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は業務委託先の管理栄養士が考え、バランスの良い食事を提供している。摂取量や状況に応じて食形態を見直したり、能力に応じて食器も工夫している。また、自立支援介護を実践していることもあり、こまめな水分補給を心掛けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアでは、まずは自身で歯磨きをしていただいた後、職員が仕上げ磨きを行っている。状態にあわせて、清拭用スポンジや歯間ブラシも活用しており、月1回の歯科衛生指導では職員も一緒に口腔内の状態確認とブラッシング指導を受けている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄ナエツク表を活用し、個々に合わせたタイミングでトイレにお誘いしている。認知症により、尿意・便意の理解が乏しくなった方でも、必ずトイレへお誘いし、トイレでの排泄をすすめている。排泄用品もその方にあったものを選ぶよう、業者と相談しながら検討している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	法人内で自立支援介護研究会が開催されており、便秘予防について学んでいる。その一環として水分摂取、歩行や体操の機会を確保し、自然排便に向けて日頃から取り組んでいる。また、個々に合わせてオリゴ糖やファイバーを活用し、下剤使用を減らせるよう取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	季節に合わせたお風呂を楽しんでいただいたり、日頃から入浴剤を選ぶよう準備している。個々の性格や状態に合わせて、お誘いするタイミングに配慮したり、同性介助にする等、その方が安心して気持ちよく入浴できるよう支援している		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や体調・気分に合わせてソファや自室で休息していただいている。室温や照明の調整他、希望に応じて冬場に湯たんぽを用意したりと気持ちよく眠れるよう支援している。夜間不眠の方には外気浴や日光浴、運動にお誘いし、自然な睡眠の促しに努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	在診時には薬剤師も同席し、一人ひとりに合った内服薬の調整と配薬管理を行っている。職員は配薬カードを活用して処方薬を把握し、誤薬のないよう努めている。内服薬を変更した際には理由を必ず記録し、職員間で共有している。変更後の経過も必ず確認し、医師に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の家事分担他、生活歴から本人の得意な裁縫や編み物の機会を設けたり、本人の好まれる塗り絵を提供したりしている。昔からの習慣である日本酒での晩酌や、YouTubeで銀幕のスターを楽しむ時間を設けたりと、嗜好に合わせて気分転換ができるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候にもよるか、散歩や早取り等、戸外で過ごす機会を多く持っている。ドライブや喫茶店への外出他、バラ園や紅葉狩り、初詣等、季節に合わせた外出支援をしている。嗜好に合わせて生け花の展覧会へ出かけたり、ご家族の協力のもと一泊旅行や孫の結婚式へ参列する等している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	殆どの方が自己管理が難しく、使用する機会があまりないが、現金を持っていないと不安な方には、ご家族に了承を得てお財布を持っていたりしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状・暑中見舞い他、姉妹との手紙のやり取りを支援している。希望に応じて固定電話や携帯電話を持参していただき、やり取りが継続できるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	今年度はトイレの扉を改修しており、開閉時の雑音が軽減された。ハード面だけでなく、身体的拘束適正化検討委員会や高齢者虐待防止委員会を通して、声の大きさや口調等について目標設定をたてたりと、職員の立ち居振る舞いが利用者の不快とならないよう日頃から気を付けている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者同士が隣席で過ごせるよう、日頃から配慮している。リビング他、廊下・玄関・玄関先にベンチやソファを配置しており、思い思いの場所で過ごしやすいよう支援している。冬場にはリビングに自由に使用できるひざ掛けを用意したりと、ゆったり過ごせるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や寝具の使用他、衣類の保管方法も自宅に近いものとなるよう工夫している。居室に飾られた家族写真を定期的に入れ替えていただいたり、本人が好まれるウール素材の衣類を着用続けられるよう、定期的にクリーニングに出していただいたり、ご家族の協力も得られている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物はバリアフリーとなっており、中庭を挟んで反対側の廊下やリビングが目視できるため、職員が常時傍で見守るのではなく、本人の様子を少し離れた場所から見守り、必要時に手助けにうかがえる環境となっている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2277100588		
法人名	社会福祉法人慶成会		
事業所名	グループホーム花みずき(幸館)		
所在地	静岡県浜松市中央区大山町2882番地		
自己評価作成日	令和7年2月4日	評価結果市町村受理日	令和7年2月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kanistrue&UjrvosyoCd=2277100588-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和7年2月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

広大な敷地と自然豊かな立地を活かし、3つのユニットがそれぞれ戸建となっている施設です。平屋造りということもあり、屋内も開放感のある空間が広がっています。ご利用者が自由にのびのびと暮らせるよう、玄関は夜間帯を除き常に開錠されており、気候の良い時期には日常的に屋外で外気浴や散歩を楽しんでいます。敷地内には畑もあり、保育園児と芋掘りを楽しんだり、収穫した果実や野菜で調理をしたりと、食べ物や風景でも季節が感じられます。法人全体として取り組んでいる自立支援介護では、水分摂取量や運動量、介助方法の見直しを行い、その方の生活がより自立したものとなるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

葵館、幸館、泉館と命名した3つのユニットが、其々独立した平屋住宅となっている事業所です。幅広の廊下では寒い日に戸外へ出なくても歩行の訓練が叶い、焼き芋やバーベキュー、菜園や栽植を愉しむことができる中庭もあります。また各ユニットリーダーが他事業所の管理者レベルにまで育っていて活躍していることも特長で、幸館ではリーダーが交代したことで地域活動が更に積極的となり体操教室も不定期から毎月参加に及んでいます。こまめなブログとケアプラン面談の励行で家族の信頼も厚く、10年以上勤務者が25%以上で加算が付与されること、当事業所は29.5%と、風通しがよく働きやすい職場であることも自慢の一つです

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念を credo として全職員へ配布し、研修を行っている。Credo の唱和、行動指針を基に毎月ユニットごとに目標をかかげ取り組んでいる。今年度は法人設立30周年記念式典があり、理事長より初心や設立時の想いを含めた法人理念について発信があった。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域包括主催の体操教室へ継続的に参加をし、事業所内で取り入れている。日常的な交流はできていないが、近くの飲食店へ出かけたり、地元の桜まつりへ出かけたりしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の薬局や包括支援センターの依頼に応じて、施設見学や取り組み内容の紹介をさせていただいている。今年度は、市内の認知症家族研究会、地元地区民生委員、中国施設運営者、ベトナム視察団が来館している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設側の報告に対する意見だけでなく、地元の老人会や民生委員の方とのコミュニケーションによって地域の高齢者の状況を知ることができている。防災訓練の実施方法や、備蓄品、野菜の育て方にアドバイスをいただいたりと、ちょっとした事でも相談できる関係性となっている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	引き続き生活保護者の受け入れを行っており、社会福祉課の担当職員へ調査票を提出したり、面会対応を行っている。また、地域包括支援センターと協力して、キーパーソン以外のご家族への対応を行ったりと、必要に応じた情報共有を行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的拘束適正化検討委員会を設置し、各ユニットごとに目標を立て継続的に取り組んでいる。事業所内研修では、外国人職員が多い事もあり、動画研修から個人ワークの研修へ切り替え、職員個々が身体拘束について考える時間と機会を持てるよう工夫している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を設置し、各ユニットごとに目標を立て継続的に取り組んでいる。定期的な振り返りと不適切ケアの事例紹介を行い、改善と意識向上に努めている。身体拘束同様、職員個々が虐待や不適切ケアについて考える時間と機会を持てるようにしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている方が複数いるため、日々の支援を通じて学びを得ている。また、地域包括支援センターやご家族と相談し、必要に応じて申立ての手伝いもしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には文章を確認しながら必ず口頭説明を行い、質問や不安点をお聞きしている。また、制度や利用料金の内容が変更となる際には、都度案内を発送し、理解と必要に応じた同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアプラン面談を再開し、ご家族から直接希望をうかがう機会が増えた。コロナ禍の影響もあり、面談を希望されない場合もあるため、電話連絡や面会など、ちょっとした会話からも意見や要望が聞けるよう努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は各職員と年2回人事考課者面談を行っており、意見や提案を聞く機会を設けている。また、事業所運営については職員が主体となって月間目標を立てており、自分のやりたい事を実践したり、提案しやすい環境となっている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回の職員意向調査を実施し、職場環境や勤務条件の整備に努めている。毎月の職員の労働時間や稼働状況などについてはアメンバー経営によって常に共有されており、人事考課の評価も含め、給与に反映されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人で新規採用職員研修が実施されており、入社半年を目途にフォローアップ研修も行っている。事業所内では職員一人ひとりが委員会活動やユニット内の役割を担っており、自信がない職員には先輩職員やリーダーがフォローすることで、できる事が増えるよう努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は同業者(他法人)の定例の委員会へ参加をし、交流や情報交換の機会を持っている。また、職員が県グループホーム連絡協議会や県社会福祉協議会の研修交流会へ参加しやすいよう配慮している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前は本人との面談を実施している。本人への聞き取りが困難な場合には、ご家族や利用していた介護事業所から詳しく聞き取りを行い、本人の様子や言動に気を配りながら関係づくりに努めている。ご家族に、可能な限りセンター方式への記入を依頼している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所申込の段階他、契約前に可能な限り再度ご家族に来館していただき、近況の確認を行っている。入居後の生活についての不安や要望を含め、対応可能な点や難しい点を説明しながら、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	法人内の管理者が月1回集まり、入居相談があった方に対して必要なサービス利用ができるよう話し合っている。また、必要に応じて地域包括支援センターへ相談したりと、サービス提供がスムーズに行えるよう、常に情報共有している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員はご利用者と一緒に家事を行ったり、草取りをしたりと、共に過ごすよう努めている。何かをしてくださった後には必ずお礼を伝え、共に生活させていただいているという意識を忘れないよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	時間帯に限りはあるが、面会・外出は自由であり、今年度より外泊制限の緩和を行った。ご家族に衣替えや嗜好品購入について相談したりと、日々の暮らしについてもご家族と職員が協力して本人を支えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	例年、暑中見舞いや年賀状をご家族に送付している。キーパーソン以外の家族の面会他、友人・知人との面会や、遠方に暮らす姉妹との電話の取り次ぎ等、関係が継続できるよう努めている。また、晩酌等、在宅からの日課も継続できるよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	工作や家事を通じて利用者同士が自然と関わり合える環境づくりに努めている。車椅子の利用者が気兼ねなく安全に移動ができるよう、状態に応じた席替えや家具の配置替えも行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	法人内の施設へ異動した際には、経過確認とケア方法の伝達を必要に応じて行っている。ご家族から相談のあった際にも都度対応しており、退去後も別の親族や知人についての入居相談をいただく事もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人が昔得意だった針仕事を、気分をうかがいながらすすめるなど、生活歴や本人の気持ちを汲み取りながら日々の生活に取り入れている。また、円背が強い利用者の見えやすい位置にトイレの案内表示を変更する等、生活環境もその方の立場になって検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や入居前の担当ケアマネージャー、利用していたサービス事業所へ聞き取りを行う他、可能であれば自宅へ出向いて居住環境を確認している。入居前の日記や介護記録、ご家族のメモ等を提供していただいたり、センター方式を活用してご家族から情報をいただいている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者ごとの申し送りファイルやケア記録を活用して、日々の過ごし方や変化を把握するように努めている。ケアプランのモニタリング、LIFEデータ送信時は定期的にADLの状態確認を行っており、著しい変化がみられた際には随時データ更新を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員それぞれがご利用者の担当を受け持っており、モニタリングやご家族への電話連絡等も行っている。状態に応じて、医師や外部の鍼灸師と面談する機会を設けたりと、計画作成担当者以外の意見を取り入れるようにしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者について新たに気づいた事や、行動の変化を要連絡事項として記録している。記録を共有しやすいよう個別でファイリングすると共に、モニタリングに記載し、ケアプランへ反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者やご家族の状況に応じて入退去の引越しの手伝いをしたり、ご家族が遠方な場合には地域包括支援センターと連携して区役所や金融機関の手続きを行う等、可能な範囲で柔軟に対応している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問による理美容、歯科、マッサージ、リハビリをご利用者やご家族の希望に沿って活用している。理美容の際には、ご本人の希望に合わせた髪型を依頼したり、歯科やマッサージ利用でその方の力を維持できるよう支援している。地域向けの体操教室へも定期的に参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科医による月2回の往診以外にも、必要時に医師へ連絡相談し、指示を受け対応している。急変や医師からの急ぎの受診指示があった際には、職員が送迎や付き添いをし、嘱託医以外の医療も受けられるよう支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師と24時間オンコール体制をとっており、必要に応じて相談・対応が可能である。宅直看護師以外にも、連携をとっているクリニックの看護師・医師への状況共有や支援が受けやすい環境である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院の際には職員が病棟まで立ち合い、医療機関へ生活状況等を詳しく伝えている。立ち会えない場合は電話連絡で状況確認と情報提供を行い、早期退院に努めている。必要に応じてフェイスシートを作成し、入院前の情報を伝えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約の段階で「重度化・看取り介護に関する指針」を提示し、現時点での意向の確認を行っている。状態変化に応じてご家族・医療関係者を含む面談を実施し、対応を検討している。退去後の療養先についても、ご家族の希望に合わせて他事業所や地域包括支援センターへ連絡して資料を取り寄せている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	月1回、協力医療機関と連携会議を行っており、急変が予測されるご利用者について情報共有を行っている。病状に合わせ、対応が必要な事項については事前に医師から指示をもらい、職員間で共有し備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間火災、大規模地震を想定した避難訓練を実施している。自動火災通報装置の説明他、年1回水消火器訓練を実施し、地元企業からの指導を受けている。法人内事業所が隣接しているため、BCPを基に協力体制が得られるよう備えている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者の生活歴や性格に合わせて同性介助をしたり、本人が一人で着替えやすいようセッティングを工夫している。不適切ケアにならないよう、言葉かけの事例の共有他、各ユニットで目標を設定し取り組んでいる。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者の希望に応じて手作りメニューを決めたり、おやつ時間を利用してお菓子バイキングやドリンクバーを行うなど、選ぶ楽しみを持てるよう工夫している。また、日々の会話の中でも本人の希望等を聞くことができるため、ご利用者との会話を大切にしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レベルや嗜好に合わせたレクリエーションの提供他、内容や希望に応じて日課や業務時間を変更し対応している。屋外で過ごしたい方には、所在確認や見守りをしながら屋外で過ごしていただいたり、柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回の訪問理美容では本人の希望や好みを伝えられるよう支援している。また、本人やご家族の希望で日常的に化粧水を使用したり、ビューティーレクリエーションでネイルやメイクを楽しんでいただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれの能力や性格を踏まえ、役割分担をしながら準備や片付けに参加していただいている。食事だけでなく、季節感のあるおやつを取り入れたり、テイクアウト等も活用しながら食の楽しみを増やせるようにしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は業務委託先の管理栄養士が考え、バランスの良い食事を提供している。摂取量や状況に応じて食形態を見直したり、能力に応じて食器も工夫している。また、自立支援介護を実践していることもあり、こまめな水分補給を心掛けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアでは、まずは自身で歯磨きをしていただいた後、職員が仕上げ磨きを行っている。状態にあわせて、清拭用スポンジや歯間ブラシも活用しており、月1回の歯科衛生指導では職員も一緒に口腔内の状態確認とブラッシング指導を受けている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄ナエツク表を活用し、個々に合わせたタイミングでトイレにお誘いしている。認知症により、尿意・便意の理解が乏しくなった方でも、必ずトイレへお誘いし、トイレでの排泄をすすめている。排泄用品もその方にあったものを選ぶよう、業者と相談しながら検討している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	法人内で自立支援介護研究会が開催されており、便秘予防について学んでいる。その一環として水分摂取、歩行や体操の機会を確保し、自然排便に向けて日頃から取り組んでいる。また、個々に合わせてオリゴ糖やファイバーを活用し、下剤使用を減らせるよう取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	季節に合わせたお風呂を楽しんでいただいたり、日頃から入浴剤を選ぶよう準備している。個々の性格や状態に合わせて、お誘いするタイミングに配慮したり、同性介助にする等、その方が安心して気持ちよく入浴できるよう支援している		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や体調・気分に合わせてソファや自室で休息していただいている。室温や照明の調整他、希望に応じて冬場に湯たんぽを用意したりと気持ちよく眠れるよう支援している。夜間不眠の方には外気浴や日光浴、運動にお誘いし、自然な睡眠の促しに努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	在診時には薬剤師も同席し、一人ひとりに合った内服薬の調整と配薬管理を行っている。職員は配薬カードを活用して処方薬を把握し、誤薬のないよう努めている。内服薬を変更した際には理由を必ず記録し、職員間で共有している。変更後の経過も必ず確認し、医師に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の家事分担他、生活歴から本人の得意な裁縫や編み物の機会を設けたり、本人の好まれる塗り絵を提供したりしている。昔からの習慣である日本酒での晩酌や、YouTubeで銀幕のスターを楽しむ時間を設けたりと、嗜好に合わせて気分転換ができるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候にもよるか、散歩や早取り等、戸外で過ごす機会を多く持っている。ドライブや喫茶店への外出他、バラ園や紅葉狩り、初詣等、季節に合わせた外出支援をしている。嗜好に合わせて生け花の展覧会へ出かけたり、ご家族の協力のもと一泊旅行や孫の結婚式へ参列する等している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	殆どの方が自己管理が難しく、使用する機会があまりないが、現金を持っていないと不安な方には、ご家族に了承を得てお財布を持っていたりしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状・暑中見舞い他、姉妹との手紙のやり取りを支援している。希望に応じて固定電話や携帯電話を持参していただき、やり取りが継続できるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	今年度はトイレの扉を改修しており、開閉時の雑音が軽減された。ハード面だけでなく、身体的拘束適正化検討委員会や高齢者虐待防止委員会を通して、声の大きさや口調等について目標設定をたてたりと、職員の立ち居振る舞いが利用者の不快とならないよう日頃から気を付けている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者同士が隣席で過ごせるよう、日頃から配慮している。リビング他、廊下・玄関・玄関先にベンチやソファを配置しており、思い思いの場所で過ごしやすいよう支援している。冬場にはリビングに自由に使用できるひざ掛けを用意したりと、ゆったり過ごせるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や寝具の使用他、衣類の保管方法も自宅に近いものとなるよう工夫している。居室に飾られた家族写真を定期的に入れ替えていただいたり、本人が好まれるウール素材の衣類を着用続けられるよう、定期的にクリーニングに出していただいたり、ご家族の協力も得られている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	建物はバリアフリーとなっており、中庭を挟んで反対側の廊下やリビングが目視できるため、職員が常時傍で見守るのではなく、本人の様子を少し離れた場所から見守り、必要時に手助けにうかがえる環境となっている。		